

平成 29 年度事業計画書

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー

1. 事業の方針

これまでの継続事業や新規事業をみなおし、事業の発展と改善に向けて事業を実施していく。タイマイ保全事業では各島の状況に適合する方策を立案し、より多くの稚ガメを生産することを目標に実質的な活動を展開する。産卵巣に対する食害対策について新たな手法での保護を試みるとともに、効果について既存の手法と比較するために数値的なデータ取得をおこなう。オサガメ保全事業に関しては、NMFS と共同で過去のアルゴスデータの解析するためにワークショップを開催し、相互に協力しながら西パプア州のオサガメ繁殖数増加を目指す。西パプア州の繁殖地では、標識放流に代わり ID 識別を実施する。当団体が実施する西パプア州の調査により、卵の移植（生体磁石に関する影響）と集約的な標識放流（産卵メスガメの繁殖地離反）が世界のオサガメ繁殖数減少の主要因となっているデータが収集され始めたため、今年度より生体磁石に関しては、オサガメ以外のアオウミガメ・タイマイ・アカウミガメ・ヒメウミガメについても、他の研究者と協力しながら調査を行っていく。さらに、オサガメでラスク腺が発見されたことに伴い、ウミガメ各種におけるラスク腺の存在を確認し、ストランディング調査でのアオウミガメ・アカウミガメ・タイマイ、小笠原のアオウミガメ、日本のアカウミガメ、パプアのヒメウミガメについてラスク腺の役割を解明する。オサガメの産卵海岸認識が嗅覚によって行われている可能性が示唆されたため、ウミガメの嗅覚についても他の研究機関と共同で調査を行う。また、西パプア州ヤペン島におけるウミガメ保全について地元住民と協働の可能性について探る。

日本国内の事業として、東京都小笠原村父島の「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」の運営管理を小笠原村より受託し、海洋生物の調査研究及び保全事業を遂行する。ザトウクジラ調査は、フィリピンとの共同研究に伴い、過去のデータを中心に解析方法を確立する。サンゴ調査は、産卵時期やサンゴ礁の育成状態を調べるための調査方法の確立を行う。関東沿岸のウミガメ漂着（ストランディング）調査に関しては、行政や関係機関、各地団体や個人と協力して行い、今年度も継続して事業展開を図っていく。

イベント開催について、支援者拡大を目指すため積極的に実施していく。自主開催のミニ講演を新たに企画および実行していくほか、第 5 回目となる「アクションミーティング」も開催する。各教育機関での講演の他、各種イベントや国内外のシンポジウムへの出展や調査結果の公表を行い、一般の人や関連機関や研究者に対して情報提供や啓発を行っていく。2014 年度より開始した「アクションミーティング」を開催するほか、他の組織と協働でイベントや講演会を開催する。ウミガメジョイントブリーディング（小学校や水族館での子ガメ短期育成および子ガメ飼育体験プログラム）を 3 組織で実施するほか、これに関して企業を巻き込んだ協力関係を提携する。その他の事業として、物品販売事業やフェアトレードを実施する。

2. 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する事業【支出見込額:31,133 千円】

ア. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】ジャワ海西部の 5 つの島（セガマ・ブサール島、プスムット島、モンペラン島、キマル島、ブナンブン島）では、これまでの卵買上げや島借上げ手法を用いたウミガメ（タイマイとアオウミガメ）卵の実質的な保護を実施する。モニタリング調査の継続と過去のデータについてまと

めていく。各島のふ化状況に適合する保全対策を立案し、具体的な事業を展開する。深刻な食害問題であるミズオオトカゲからの食害回避策を試行し、効果の評価もおこなう。インドネシアの他地域におけるタイマイの繁殖状況調査を進めるとともに、各産卵地からタイマイの DNA 分析用サンプルを可能な範囲で収集する。アジア地域を中心に、太平洋・インド洋地域の遺伝子解析や繁殖地に関する文献収集もおこなっていく。西パプア州のジェン・ウォモン地区では、5 月より新たな卵監視システムでモニタリング調査を開始する。これに伴い、ブタによる食害を防止するために設置した電気柵の維持管理の強化を行う。ジェンスワップ海岸では、地域住民が行うオサガメ保全活動を資金的及び技術的な面から支援し、地域住民による新たな卵監視システムを円滑に推進する。インドネシア調査時に、タイマイやオサガメ、ヒメウミガメで生体磁石やラスク腺に関する調査を行う。また、東大気海洋研のヒメウミガメのアルゴス追跡調査に協力する。西パプア州のヤペン島において地元住民からウミガメ保全について協力要請があり、その協働の可能性について探る。

- イオン環境財団助成事業（一部）
- 国際資源評価等推進補助事業（一部）

【日時】平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】ジャワ海西部（セガマ・ブサル島、プスムット島、モンペラン島、キマル島、プナンブン島）
西パプア州（ジェン・シュアツ地区、ジェンスワップ海岸、ヤペン島）

【従事者人員】5 人

【対象】ジャワ海地域の住民（40～60 名）、西パプア州政府と地区住民（1,000 人）、国際総合水産研究所、水産庁、NMFS、パプア大、WWF-Indonesia、海洋漁業省、東京大学気海洋研究所

イ. 小笠原諸島におけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】小笠原諸島においてアオウミガメの産卵巣モニタリング調査及び標識放流調査、ふ化率調査、人工ふ化放流、短期育成を実施する。父島市街地に隣接する大村海岸では産卵時期に合わせてパトロールを行い、産卵された卵の一部を小笠原海洋センター内に移植し、ふ化後に放流する。また、帰海できなくなった母ガメの保護も行う。生体磁石に関する実験を実施し、大村海岸の移植に関する保全案を立案していく。ウミガメの嗅覚に関して、東海大学と共同で研究を行う。ウミガメ類の頭骨の形成、胚の発生精査に関して、東邦大学と共同で研究を行う。

- 小笠原村アオウミガメ保護増殖補助事業（一部）
- 三井物産環境基金助成事業（一部）

【日時】平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】小笠原諸島

【従事者人数】30 人

【対象】島民（約 2,700 人）、東海大学、東邦大学

ウ. 関東沿岸におけるウミガメ漂着調査事業

【内容】関東沿岸（茨城県、千葉県、東京都、神奈川県）のウミガメ漂着（ストランディング）調査および定置網におけるウミガメ混獲調査を実施する。これまで構築したネットワークをベースに各地団体や個人、行政と協力しながらネットワークの強化を図る。ウミガメ生態に関する調査や共同研究をおこなう（ラスク腺、安定同位体比からの回遊、臭覚）。

【日時】平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】茨城県、千葉県、東京都、神奈川県

【従事者人員】 4人

【対象】 各地団体及び個人（サーファー、カヤッカー等）、行政関係者、漁業関係者、東海大学、西海区水産研究所、ウミガメ研究者など約 200 人、

エ. 小笠原諸島におけるザトウクジラ調査事業

【内容】 フィリピンとの共同研究に伴い、過去のデータを取りまとめ、小笠原諸島周辺海域に来遊するザトウクジラの新たな調査方針を立てる。

【日時】 平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】 東京都小笠原村父島及び母島、聳島の各列島

【従事者人員】 30 人

【対象】 島民（約 2,700 人）

オ. 小笠原諸島におけるサンゴ調査事業

【内容】 父島二見湾内製氷海岸におけるサンゴ群落の生息域モニタリング調査を実施するにあたり、その産卵時期やサンゴ礁の育成状態を調べるための調査方法の確立を行う。

【日時】 平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 1 日

【場所】 東京都小笠原村父島

【従事者人員】 3 人

【対象】 島民（約 2,700 人）

② 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する人材の育成事業【支出見込額:3,403 千円】

ア. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全に関する人材育成事業

【内容】 インドネシア現地カウンターパートである「インドネシアウミガメ研究センター」のスタッフや各保護事業実施地域の監視員に対して調査技術の指導を行う。また、西パプア州ヤペン島の地域住民へのウミガメ保全手法の指導について、実施の可能性について模索する。

【日時】 平成 29 年 5 月、7 月、8 月、10 月、平成 30 年 2 月

【場所】 ジャワ海西部（セガマ・ブサル島、プスムット島、モンペラン島、キマル島、プナンブン島）、西パプア州（ジェン・シュアアップ地区、ジェンスワップ海岸、ヤペン島）

【従事者人員】 4 人

【対象】 ジャワ海西部地域の住民（30～50 名）、西パプア州のオサガメ監視員（20 人）、ヤペン島アンデイ村の住民（約 100 名）

イ. ボランティア、インターン及び研修生の受け入れ及び指導事業

【内容】 海洋生物の調査や保全に関して興味がある人々を一般から広く受け入れ、知見を広める場を提供するほか、海洋生物をテーマに研究を行う学生に対してサポートを行う。

【日時】 平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】 東京都小笠原村父島、神奈川県横浜市

【従事者人員】 9 人

【対象】 一般

③ 海洋生物及び自然環境に関する情報提供、普及啓発の事業【支出見込額:7,780 千円】

ア. 小笠原村屏風谷施設の運営管理事業

【内容】小笠原村より運営管理を委託された「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」を利用し、海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を島民や来島者に対して行う。

● 小笠原村補助及び委託事業

【日時】平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】東京都小笠原村父島（小笠原村屏風谷施設）

【従事者人員】9 人

【対象】島民及び来島者

イ. 教育啓発・エコツーリズム事業

【内容】小笠原小学校の生徒に対して週 1 回の総合学習を通しウミガメに関する教育・啓蒙を行うほか、島民や来島者に対して海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を行う。海洋生物保全と地域経済活性化の両立させることを目的にエコツーリズム基盤を構築する。季刊誌の「海洋と生物」に活動紹介や活動内容を寄稿する。

【日時】平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】東京都小笠原村父島

【従事者人員】9 人

【対象】一般

ウ. ウミガメジョイントブリーディング（小学校および水族館での子ガメ短期育成および飼育体験学習）

【内容】さとえ学園小学校、ヨコハマおもしろ水族館、国際動物専門学校にて子ガメ飼育体験を通じた教育・啓発活動を実施する。

【日時】平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】東京都、埼玉県、神奈川県

【従事者人員】9 人

【対象】小学生 1,000 人および水族館への来館者

エ. WEB サイトによる情報発信事業

【内容】エバーラスティング・ネイチャーの活動理念や目的、インドネシアや国内での活動成果を一般に広く公開するために、ホームページにおいて情報の発信を行う。Facebook や twitter などの SNS やメールマガジンを活用し、より多くの人に発信していく。

【日時】平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】神奈川県横浜市（当団体横浜事業所）、東京都小笠原村父島（当団体小笠原事業所）

【従事者人員】9 人

【対象】一般

オ. シンポジウム・イベント開催出展事業

【内容】ウミガメやクジラに関するイベント開催や環境関連の各種イベント出展を通し、活動の紹介や海洋生物の普及啓発を行う。自主開催のミニ講演会を開始し、ウミガメについての知見や活動紹介をおこない支援者拡大を目指す。他団体主催イベントにも内容を吟味した上で積極的に参加し、今後のイベント事業の在り方について模索していく。季刊誌の「海洋と生物」に活動紹

介や活動内容を寄稿する。

【日時】平成 29 年 4 月（アースデイ東京）、6 月（東京海洋大学ウミガメ研究会ゼミ）、7 月（ウミガメミニ講演会）、10 月（グローバルフェスタ）、11 月（ウミガメミニ講演会、カメ DE Show）、12 月（アクションミーティング）、平成 30 年 1 月（東京海洋大学うみがめ研究会ゼミ）、2 月（国際ウミガメ会議）、3 月（2017 年度小笠原ウミガメ報告会、神奈川総合高校エコフェスタ）ほか。「海洋と生物」への寄稿：通年

【場所】東京都、神奈川県、兵庫県

【従事者人員】9 人

【対象】一般

（2） その他の事業

① 物品販売

【内容】「小笠原村屏風谷施設（小笠原海洋センター）」の展示館において、来館者に物品の販売を行う。
また、エバーラスティング・ネイチャーの WEB サイトにおいてネット販売を行うほかイベントにおいても物品の販売を行う。インドネシアのウミガメ保全事業地住民が製作した民芸品などのフェアトレードを実施する。

【日時】平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】東京都小笠原村父島（当団体小笠原事業所）、神奈川県横浜市（当団体横浜事業所）、東京都、兵庫県、インドネシア

【従事者人員】5 人

【対象】会員及び一般消費者